

## 別紙 動機・理念・目標

### ○動機

私は、福山市内の公立中学校教員としてほぼ 30 年勤務し、教員退職後は公立中学校で市の嘱託職員として特別支援学級の介助員を 2 年余り勤め、その後放課後等デイサービス事業所でほぼ 5 年間(2 年半を指導員として、その後の 2 年余りを児童発達支援管理責任者として)勤めて参りました。その中で私は、障がいを持った子どもたちの学習や生活、進路に関して、当事者の保護者はもちろん、こうした仕事に携わる関係者が、多くの労力と暗中模索の中で奔走している事を知りました。

一方、私の最近における放課後等デイサービスでの経験は、自己の人生観を一変させました。それは、教師時代に身に付けた指導方法だけでは決して通用しない事を思い知った事から始まり、自分の奥底の心に従いながら、好み、得意といった「好き」から楽しい学びが始まっていく事に今更気づき、それが自分を楽に豊かしてくれるものであり、学びとは一人一人違って、しかも全てが人間同士の創造的な営みである事に、これも今更気づいたなど、それは新たな学びと喜びでした。

これまで私は挫折も多く経験しつつ、昔も今も、多くの人に支えられて生きて来ました。障がいを持った子ども達一人一人と関わり続けて来て、私は、自分自身の体験と重なる事もしばしばですが「子どもの方が柔軟だ」としばしば思い、この柔軟性は「ただ子どもだから」というだけではないようにも思いました。この「不思議な魅力」に惹かれるように、私は、障がい者福祉の世界に居続けることで、自分の人間らしさも保てると考え、「自ら事業を興して、これまでの人生で得た知識、スキル、ネットワークを駆使して障がいを持った子ども達の自己実現に貢献し、それをもって、この社会全体の幸福水準の向上に寄与すべし」と思うに至りました。

### ○理念

私は「一人ひとりが、周囲と関わりながら自分の『つよみ』に気づき、それを伸ばし自己肯定感を高める中で、初めて自己実現をなし得るに至る」と確信しています。

この「つよみ」は、生来の能力や好き、得意だけを指すものではありません。「よわみ」と思っていたものが逆に「つよみ」になる-例えば、子ども達が障がいを持って生まれたこと自体が、逆に優しさや、特化した能力といった「つよみ」に逆転する-こともあります。また、それは生育歴、環境、人間関係の中で萌芽し、周囲との関わりや周囲からの評価によって初めて獲得できるものだと思います。

子どもの主たる生活の場は家庭および学校です。私たちは、こうした場における子どもたちの当面の困りごとの解決に寄与し、彼らがより充実した生活ができるよう支援する「後衛」です。

私たちは、まずお子様、そして保護者一ひとりと深く繋がり、その困りごとを具体的に把握、解決するため、子どもたちが通う学校、地域における福祉、教育関係者等あらゆる方々と繋がり、人間関係を築き、そのお力も頂き、時にその支援者ともなりながら創造的に取り組みを進めていかねばなりません。

### ○目標

私たちの目標は、

「子ども達一人ひとりが、自分のつよみを発見しそれを自ら伸ばし、自分と他者の尊厳を大切にしながら、自己実現をなし得る資質を獲得するために、欠くべからざる後衛となる」です。

そのために、

- ・利用者が、自らの困り事に真剣に向き合い、他者と触れあいながら毎時間楽しく充実した活動を行える場を提供する。その場は、時に事業所から地域に出向くなど、あらゆる場とする。
- ・お子様の学習面、生活面の保護者の悩みやニーズに寄り添い、保護者と共に子どもの成長を喜び合える信頼関係を育む場を提供する。
- ・不登校の状況にある子ども達や発達上の課題を抱えながら生活困窮等の理由により十分な支援を受けられていない子ども達にも積極的に関わりを求め、学校や他の障害児通所支援施設、地域の関係者、ボランティアのお力もお借りしながら、より広い層の子ども達への支援提供をめざす。
- ・これらの活動を維持継続するため最新、適切な福祉教育理論を研修するなど自己研鑽に努める。